



平成 28 年度電動ツーリングカー 全日本選手権競技注意事項

レース中の注意点

コントロール プラクティス、予選、決勝においては、助手は一名までピットエリアに入る事が出来る(但し助手専用のスペースが確保出来る場合に限る)。

スタート位置は、計測ラインの手前にあるラインより後ろ側となるため、ラインより前に出ないで待機する事。出走が遅れた場合にスタートする場合は、最後尾からのスタートとなり、先頭車が1周目をカウントする前にコースイン出来る場合のみ出走が可能。

Aメインのゴール終了後は、スタッフが車を回収する。助手は車に触れない事。

途中でリタイヤした場合には、操縦台から降りずに一步下がり、レースが終了するまで静かに待機する事。レース中の暴言や、操縦台を叩くなど、他の選手の操縦の妨げになる行為はしない事。

出走順

練習走行は自由。コントロール プラクティスの1ラウンド目と予選1ラウンド目、その他組み換え直後の予選ラウンドは、ゼッケン1番から順番にスタート、その他の予選ラウンドは、前のラウンドでのタイム順でスタートする。

操縦台に上がる順番は、常にスタート順と同じとする。

練習走行

ゼッケンとトランスポンダーを装着する事。

タイヤはコントロール タイヤ以外のタイヤでも使用可能。

時間内でのタイヤ交換、グリップ剤の塗布は自由。

練習時に限り、助手専用のピットエリアが確保されている場合には、ピットエリアに入る事が出来る助手は2名まで認める。

コントロール プラクティス

3周の立て続けベストラップ方式で順位を決め、予選に向けてのヒートの組み換えを行う。使用出来る車は一台のみ。計測中には、タイヤやボディの交換及びタイヤの前後左右の入れ替えは禁止。途中でグリップ剤を塗布する事も禁止。

決勝レース

フライング、ショート カット、プッシングなど、バッド ドライブと見なされる走りをした場合にはストップ&ゴーのペナルティを取る。ペナルティのコールを受けた選手は、速やかにペナルティ ボックスの中にマシンを停止させる事。ゴーの合図で再出走可能となる。

レース終盤でのペナルティの際にストップ&ゴーを取れない状況においては、レフリーの判断にて、バッド ドライブの度合いにより10秒プラス又は1周マイナスのタイム ペナルティを取る

バッテリー

リポバッテリーの充電、放電時には、必ずリポバッグを使用する事。